



# 第35回 全国テレビ照明技術者会議 開催報告(後編) 「大江戸あかり亭」 ～“伝統文化”とかけて“あかり”と解く。その心は…～

テレビ部会 撮影/小川 峻毅



会議の様子

昨年10月12日と13日に、「第35回全国テレビ照明技術者会議」が、東京新宿区にある芸能花伝舎の体育館で開催されました。今月も先月に引き続き、会議の様子をお伝えします。今回のテーマは『大江戸あかり亭』と題し、現代まで続く伝統文化に着目しました。進む事だけでなく一歩足を止め、昔の文化をかえりみることで、未来の映像を創り出すヒントになればとの思いで開催されましたが、講演のテーマは伝統から4Kまで多岐にわたり、非常に充実した会議となりました。

## 講演 1 「記憶を継承する光」

東京都市大学 工学部建築学科 小林 茂雄 教授

### ■プロフィール

専門は、建築と都市の光環境計画と評価、環境心理行動学

【主な受賞】・北米照明学会 (IESNA) 国際照明デザイン賞

Award of Merit (2008)

・日本建築学会賞 (論文)

「人の行為を軸とした建築環境の評価に関する研究」(2010)

・SDA 賞サインデザイン賞

「高台避難誘導を促進する光環境整備 - 岩手県釜石市」(2014)



「記憶を継承する光」をテーマに、東京都市大学工学部建築学科 小林茂雄 教授に講演をお願いしました。

小林教授は、建築と都市の光環境計画と評価・環境心理学を専門とされており、建築の光が人にどのような影響を与えるかについてや、テレビ照明が人に与える影響について、お話いただきました。

## ● 記憶を継承する光

様々な物事や情報が速いスピードで移り変わっていく現在、場所の証や出来事の記憶を切り出し、未来に伝えていくことが重要です。

光は、その時の情景を生き生きとつくり出すと同時に、人の記憶にはたらしかけます。記憶を継承するために光はなにができるのでしょうか？

## ● テレビの光から日常の光へ

テレビ照明は、画面の中に人の表情・感情・ストーリーを作り、集約させています。現在はスマホ等での写真・動画撮影（インスタ等）を考えた空間建築の光が求められており、その場の雰囲気・シーン・快適な光は、テレビ照明を応用すると良いと考えます。逆に、幅広いラティチュードと多様な視点を同時に持つ建築の光は、テレビの光へも通じると思います。

実際には、各環境でももの見え方は大きく違います。直島にあるジェームズタレルの作品等でも表現されていますが、暗い所では目が慣れるまで約40分かかります。さらに、あまり色は感じずモノクロの世界になっていますが、テレビ照明は、そこを上手く再現させています。

テレビと建築空間を互に行きかう光の表現があるとすると、今まではテレビ自体が周囲の空間に明るさを

合わせていましたが、テレビの明るさに空間の明るさを合わせる方が良いのではないかと思います。

## ● 記憶に残る光の風景

記憶にいつまでも残っている光とは何でしょうか？

いつ・どの様な光で、何故記憶に残るのかを、学生のアンケートを元に検証した結果があります。そこから、記憶に残る光の特徴と、その意味について考えることが出来ます。

光の記憶を再認識することによって、無意識のうちにたまっていた、自分の気持ちや状況が浮かび上がってきます。

### 【学生アンケートの結果】

#### <部活の光>

- ・ ダンス部  
舞台上で浴びた光やライトダウンの瞬間の光
- ・ バドミントン部  
暗幕からこぼれるダンス部のまぶしい光
- ・ サッカー部  
寒くて暗い中で練習している時、体育館を使用している部活の光が明るく、暖かそうな景色が印象に残っている
- ・ 陸上部  
走り終わった時に見た、電光掲示板の無機質な光

- ・ 引退試合  
勝ったチームは快晴の空のもとで明るく輝いていた。  
負けたチームは薄暗い所において、その暗さが印象に残っている

#### <太陽の光>

- ・ 朝日  
気持ちよい光、やさしい光
- ・ 夕陽  
車を運転中に夕陽がまぶしくて、日よけ板を下げた時に父親の姿を感じ、感傷的な気分になった。子供時代に父親の運転する車に乗っていて、父親が日よけ板を下ろしていた記憶がよみがえったから

#### <家庭の光>

- ・ 玄関  
小学生の頃、親が帰ってきた時に点いた、玄関の光に感じた安心感
- ・ ろうそく  
誕生日会、ろうそくの火がゆらゆら揺れる光。暖かさを感じる反面、火をつけたときに消える事を想像し、寂しさを感じた
- ・ 停電の時  
復電の時に点いた光が強く記憶に残っている
- ・ ベランダの夜景  
不安な気持ちの時に見た、マンション最上階からの夜景が忘れられない。新たな決意がうまれた



講演の様子



小林茂雄 教授



社会を乱す落書きの行間を照らす



寂しげに置かれている旧型新幹線に笑顔の光を照射する

## ● 街の個性を引き出す光

見過ごされやすい風景に光を与える事によって、面白く・気を引き・注意させる事ができ、さらに、風景に個性を持たせる事が出来ます。

面白くない街や風景は、個性がないからではないかと思えます。実際に、次の様な物に光を照射し、影を出したりして表情を出し、個性や存在感を持たせる事に取り組んでみました。

### <気に留めない風景に与える光>

駐輪場・ゴミ集積所・壁の落書き・神田川・樹木等

### <記憶を再生する物>

旧型新幹線・公園の砂場等  
(光のキャンパス)

## ● 風景を継承する光

街の風景は日々変わっていきます。

2011年の東日本大震災で、街の骨格は大きく失われました。

固有の風景を継承する為に出来る事が無いのか、残っている街並みを、光を用いて地形を表現し、歴史・文化を感じてもらえる事が出来ないかを、社会実験として様々なボランティア活動をしています。

震災時に人は、明るい方へ避難してしまう傾向があります。山側より海側の方が明るい場合、山側に光を足したいのですが、避難照明だけでは風景を崩してしまいます。そこで、既存の石

碑等をライトアップし、階段等を分かりやすくして、高台に誘導する実験をしました。結果、遠くからでも認識しやすくなり、行政に提案し常設照明に繋げていくことが出来ました。

風景や人々の生活の有様を出来るだけ継承しながらも、安全で生き生きした街を作っていきたいと思えます。

## ■ まとめ

「記憶とは、もう一度その瞬間を生きる事」。場所の記憶と風景の記憶、出来事の記憶を引き出すきっかけとして、テレビ照明に出来ることは何だろうか？

テレビ照明家として、人々の記憶に残る光(照明)をテレビ画面の中でいかに表現し、訴えかける事が出来るかという事を、考えさせられる良い機会となりました。

Q 記憶に残る光には、色の要素があまり出てこないように感じましたが、いかがですか？

A プールや海の中に見える青さなど、自然現象で感じた色に関して、記憶に残る事が多いようです。

Q 今日のお話を伺い光の持つ重みを感じました。日本のテレビ番組は明るい画面構成が多いが、もう少し落ち着いた画面を作りたいです。良いアイデアを教えてくださいませんか？

A おさえた表現を好む人もたくさんいます。全て映像で説明するのではなく、最後は視聴者にゆだねて、その人の体験に合わせて感じてもらうことを意識すると良いと思います。

Q 震災現場での作業で、予想以上に大変だったことはありますか？

A 傷つかれた住民の方が、何かに利用されていると感じ取ったりする事もありますが、我々の場合、大学生が直接交渉に行き、良くしたいという気持ちが相手に伝わった為、上手くいったのではないかと思います。ただし、話す順番を間違えると失敗することもあるので、気をつけています。